

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2372101390		
法人名	社会福祉法人 瑞穂会		
事業所名	グループホーム かみさの家 ユニット名「ぼかぼか」		
所在地	愛知県岡崎市上佐々木町字大官43番地		
自己評価作成日	平成26年08月28日	評価結果市町村受理日	平成26年11月19日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人あいち福祉アセスメント		
所在地	愛知県東海市東海町二丁目6番地の5 かえてビル 2階		
聞き取り調査日	平成26年10月24日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

理念である「ゆつくり楽しく普通の生活を」を念頭に、人と人とのふれあいを大切に考えています。地域住民の一員として、町内の「ふれあいサロン」に参加したり、ボランティアの受け入れ、出張美容室の利用、地域の方々との行事やレク活動、防災訓練等で随時外部の方と接する機会を設け、交流を通して社会性の維持に配慮しています。又、今年度も畑での野菜作りと共にチューリップやひまわりなどを植えることで近隣の方も見に来ていただけ、良い交流の場として活用することができていました。日常的な外出や散歩が困難な身体面に不安のある利用者の方も庭に出ての外気浴や負担軽減を考慮した公用車での外出の実施を行っています。運営推進委員会・家族会協力の元、防災訓練の実施を今年度も行っていく予定にしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆつたりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員玄関に理念を提示し、年度初めの会議の場では事業計画を基に確認を行い、職員間の共通理解を図っている。又、職員個々の目標を理念と照らし合わせて挙げ、実務に繋げている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内での行事(ふれあいサロン・地蔵祭り、石工団地の祭り)への参加と共に、今後開催される学区行事への参加も計画している。日常的な買い物を含め、利用者を理解した上で受け入れてもらえてきている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域行事への参加や、買物を通して、認知症の方の生活の様子を見て頂くことと共に、実際に交流しながら問に答えたりしている。又、法人発行の新聞の中に認知症に関する孤児を掲載している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	学区の福祉委員や民生委員、総代の方々が地域の於いて威容的に活動してみえるため、助言を参考にさせて頂いている。又、今年度は事故対策のついて年間を通して環境面や事例に関して取り組み、活発な意見が改善に繋がっている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の介護相談委員の方の定期的な訪問時には情報交換を行っている。又運営推進会議にも参加して頂き、訪問時の様子も含め助言を頂いている。利用者個々のつぶやきにも気づいて頂けている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は行わない方針に変更はないが、日常生活において危険予測を含め、利用者個々の生活リズムに合わせ、玄関の施錠時間や、消灯時間の変更など、検討を繰り返している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	日々のケアに於いて、職員のストレスにつながる要素は何かを会議やミニカンファレンスの場で話しあえる関係づくりに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	実際に必要な手段として利用しておられる方もみえるため、一部の関係職員だけでなく、全体で学べる機会を検討している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約内容の項目を一つずつ確認しながら説明している。内容変更の際には家族会で検討・了解を得て、同意書を頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会で課題抽出や、運営推進委員会に全家族が順番に参加して頂くことで機会を設けている。又面会時には雰囲気づくりに努め、要望等を確認できる様に努めている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	施設長は随時個人面談を実施している。職員会議やミニカンファレンスの際に話し合う機会を作っている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	施設長は個人面談の際に就業環境やスキルアップにつなげる目標設定の確認を行っている。年1回5連休のリフレッシュ休暇をとれるようにしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修・外部研修の継続と共に、資格取得に向けて情報提供や研修会参加など配慮する。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市の小部会や三河ブロックに参加し情報交換をしている。その中で事例検討等も行い、実践に向けて参考になる意見が頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面接はご本人、ご家族の希望される場所で行い、時間をかけて生活状況を把握し、ご本人の思いを引き出せるように対応している。事前に通所や見学をして頂くことで、不安感の軽減に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	申し込みや見学の際に話を伺い、いつでも相談に応じる旨を伝え、状況に応じた対応をとっている。事前面接時には、経過や現状を家族のなつて聞き、信頼して頂けるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族の現状をは把握し、担当支援専門員と情報を共有し、法人内の他事業所との連携を図っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	個々の能力や、その日ごとの体調を考慮しつつ、家事全般や畑作業、工作活動など出来る事を利用者、職員が一緒になって行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月のお便りには担当職員よりご本人の写真添付で近況報告を同封している。又、面会時には気兼ねなく過ごせる環境を提供し、外出や、行事の際には対応ポイントのアドバイスを提供し楽しい時間が過ごして頂けるようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人面会時には次に繋がるようご本人とゆっくり過ごせる環境作りに努めている。散歩時など知り合いの方と出会った際には談笑できるよう職員も関係づくりに努めている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食事や活動時間などは、関係が円滑になるよう環境設定を行っている。各フロア内に数人掛けのソファを数か所設け、気の合う方同士で過ごせるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	併設の特養に移行されたケースでは、本人、家族との交流が継続されている。敷地内の散歩では利用者と退所者の交流も続いている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人の生活歴を把握するとともに、希望を伺ったり、言葉や表情から推察し、希望に沿ったケアプランの作成・実施が出来る様に努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時からご家族や他機関に情報収集を行い、職員が利用者の生活歴や思いを把握・理解し、今後のケアにつなげている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常生活の中で1日の流れを把握し、個人の情報として、日誌の記録にて情報を共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的に担当職員と計画作成担当者又は管理者や、他職員とモニタリングを行い、ケアプランの内容に対して継続・修正をし、ケアの向上に努めている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	時間の流れに沿った言動を記録している。また、別紙(ヒヤリハット報告書等)に事項を随時記入し課題の参考にしてしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	訪問リハビリなど、ホームにないサービスの提供を他機関と連携し実施している。ホームでの生活に困難を期待している利用者に関しては地域包括と連携し、特養への移行など相談・実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の店舗への日常的な買い物や行事への参加と共に運営推進会議を中心に地域との関係作りに努め、実際にホーム内を見て頂き危険個所と思われる設備等、改善案を頂き反映に努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	近医との関係を密にしており、老人健診・定期健診・体調不良時は看護師と受診している。随時家族同伴で受診し、医師から説明頂木、日常生活のアドバイスを頂いている。運営推進会議にも病院スタッフが参加して頂いている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	24時間、必要時には情報を共有し、緊急性がある場合には速やかに対応している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院先には利用者の情報を提供し、混乱なく治療を受けられるよう可能な範囲で面会している。速やかな退院に向け、情報交換しながら退院後の対応に向け相談している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	日々の家族との関わりの中で、今後起こりうるリスクや状態変化について説明の機会を設け、リスクに対して同意書を頂いている。医療的なケアが必要な場合は、併設の特養と連携し、家族の理解を得ながら、視線の場を移行している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	内部研修で高齢者に多い症例に対する対応や緊急対応研修を実施計画している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	日中・夜間想定避難誘導訓練を毎月行っている。今年度は地域住民の方への応援要請を含めた訓練を9月末に計画しており、地域の方からも了承を得ている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々の人格を尊重すると同時に、ご本人の気持ちの有り様やその場の状況を判断して、プライドやプライバシーに配慮した言葉かけとなるように留意している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者との日頃の関わりを通してお互いの信頼関係を築くよう努め、ご本人が希望し自己決定しやすい声掛けや雰囲気、環境作り心掛けています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者個々から、その日やりたいことの希望を聞いたり、気持ちの有り様を見ながら誘い、マイペースでストレスなく過ごせるように配慮している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人の好みを最優先に、季節や室温に合わせた洋服の組み合わせ等のアドバイスをしています。美容室利用時は、好みのヘアスタイルを確認している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備、後片付け等で個々が出来る事を見極めて、一人一人に合った内容の手伝いをお願いして、職員と一緒にいる。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量・水分量を一人一人に合わせて、必要量を常に把握して、確保できるように食事の形態や摂取への工夫を行い、摂取量に過不足の生じないよう留意している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後、うがい・歯磨き・義歯洗浄の声掛け、見守り、セッティング等を個々に合わせて支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	尿意・便意の訴えには、その都度トイレ誘導を行っている。また、1人でトイレへ行かれても、プライバシーやプライドに配慮し、後処理の確認をしている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	定時の体操以外でも、散歩や歩行の機会を増やすようにしつつ、水分を十分に摂っていただいている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	職員の勤務体制の改善により、夜間の入浴が可能となり、希望者は夕食後からも入浴できるようになり、毎日個々の希望を確認しながら入浴を実施している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご本人の意思を尊重しながら、活動と休息のバランスを図っている。夜間の入床時間もご本人に任せている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は常に利用者の服薬している薬の説明書をファイルして理解に努めている。服薬は職員がその都度手渡しし、飲み込みを確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食事準備、後片付け、洗濯たたみ等、個々に合わせた役割を持ってもらっている。又、趣味の裁縫や編み物、畑作業など個々の希望に合わせた生活を送って頂いている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日は近所の散歩を実施している。要望、希望があれば、ドライブ・買い物・外食の機会を設けている。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人が自分のお金を持って買い物ができる様にしている。自己管理が難しい方には、買物の際に支払いを一緒にお願ひするようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	必要に応じて、ご家族と相談し、電話をしたり便りが出来る様に支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	室温や採光はその場にいる利用者に随時確認しながら調整している。花壇や畑に季節の花や安愛を植えるなどして季節感を演出している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共同空間でも、自由に気の合った者同士でソファーに座り、話をしたりテレビを見たりなど、個々が思い思いに過ごせるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人の使い慣れた家具や品を持ってきていただいたり、花や写真等を飾って、好みの空間になるよう配慮している。エアコン、加湿器を各居室に設置し、好みの室温で過ごすことができる。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室内はご本人の希望を可能な限り取り入れた上で、安全面の確保や身体機能を生かせるように家具やベットを配置している。		

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	2372101390		
法人名	社会福祉法人 瑞穂会		
事業所名	グループホーム かみさの家 「萌」		
所在地	愛知県岡崎市上佐々木町字大官43番地 ユニット名「萌」		
自己評価作成日	平成26年08月28日	評価結果市町村受理日	平成26年11月19日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	特定非営利活動法人あいち福祉アセスメント		
所在地	愛知県東海市東海町二丁目6番地の5 かえてビル 2階		
聞き取り調査日	平成26年10月24日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

個々の生活歴や習慣を活かし、職員と一緒に「自分で出来る事」を一つずつ達成しながら、「ゆっくり楽しく普通の生活を」送れる事、利用者・家族・職員・地域の方々が気兼ねなく立ち寄り談笑できるホームとして今後もありたい。町内の「ふれあいサロン」への参加や、近隣の犬の散歩コースの立ち寄り場にもなり、動物と触れ合い楽しく過ごす機会ができました。課題でもある、外出支援には、体調面にて日常的な外出が難しい方もみえる為、隣接するやはぎ苑への生活面での行き来を徐々に増やしていき、庭の花畑や畑を回ったり、他ユニットとの協力を経て季節を感じられる場所へ出かけられています。運営推進委員会の協力により、当施設内を実際に見学して頂くことで、外部から見えるのリスク箇所を幾つか挙げられ、利用者や職員の状況を踏まえ改善に繋がる案を頂き検討することが出来た。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

--

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員玄関に理念を提示し、年度初めの会議の場では事業計画を基に確認を行い、職員間の共通理解を図っている。又、職員個々の目標を理念と照らし合わせて挙げ、実務に繋げている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内での行事(ふれあいサロン・地蔵祭り、石工団地の祭り)への参加と共に、今後開催される学区行事への参加も計画している。日常的な買い物を含め、利用者を理解した上で受け入れてもらえてきている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域行事への参加や、買物を通して、認知症の方の生活の様子を見て頂くことと共に、実際に交流しながら問に答えたりしている。又、法人発行の新聞の中に認知症に関する孤児を掲載している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	学区の福祉委員や民生委員、総代の方々が地域の於いて威容的に活動してみえるため、助言を参考にさせて頂いている。又、今年度は事故対策のついて年間を通して環境面や事例に関して取り組み、活発な意見が改善に繋がっている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の介護相談委員の方の定期的な訪問時には情報交換を行っている。又運営推進会議にも参加して頂き、訪問時の様子も含め助言を頂いている。利用者個々のつぶやきにも気づいて頂けている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は行わない方針に変更はないが、日常生活において危険予測を含め、利用者個々の生活リズムに合わせ、玄関の施錠時間や、消灯時間の変更など、検討を繰り返している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	日々のケアに於いて、職員のストレスにつながる要素は何かを会議やミニカンファレンスの場で話しあえる関係づくりに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	実際に必要な手段として利用しておられる方もみえるため、一部の関係職員だけでなく、全体で学べる機会を検討している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約内容の項目を一つずつ確認しながら説明している。内容変更の際には家族会で検討・了解を得て、同意書を頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会で課題抽出や、運営推進委員会に全家族が順番に参加して頂くことで機会を設けている。又面会時には雰囲気づくりに努め、要望等を確認している様に努めている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	施設長は随時個人面談を実施している。職員会議やミニカンファレンスの際に話し合う機会を作っている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	施設長は個人面談の際に就業環境やスキルアップにつなげる目標設定の確認を行っている。年1回5連休のリフレッシュ休暇をとれるようにしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修・外部研修の継続と共に、資格取得に向けて情報提供や研修会参加など配慮する。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市の小部会や三河ブロックに参加し情報交換をしている。その中で事例検討等も行い、実践に向けて参考になる意見が頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面接はご本人、ご家族の希望される場所で行い、時間をかけて生活状況を把握し、ご本人の思いを引き出せるように対応している。事前に通所や見学をして頂くことで、不安感の軽減に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	申し込みや見学の際に話を伺い、いつでも相談に応じる旨を伝え、状況に応じた対応をとっている。事前面接時には、経過や現状を家族のなつて聞き、信頼して頂けるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族の現状をは把握し、担当支援専門員と情報を共有し、法人内の他事業所との連携を図っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	個々の能力や、その日ごとの体調を考慮しつつ、家事全般や畑作業、工作活動など出来る事を利用者、職員が一緒になって行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月のお便りには担当職員よりご本人の写真添付で近況報告を同封している。又、面会時には気兼ねなく過ごせる環境を提供し、外出や、行事の際には対応ポイントのアドバイスを提供し楽しい時間が過ごして頂けるようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人面会時には次に繋がるようご本人とゆっくり過ごせる環境作りに努めている。散歩時など知り合いの方と出会った際には談笑できるよう職員も関係づくりに努めている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食事や活動時間などは、関係が円滑になるよう環境設定を行っている。各フロア内に数人掛けのソファを数か所設け、気の合う方同士で過ごせるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	併設の特養に移行されたケースでは、本人、家族との交流が継続されている。敷地内の散歩では利用者と退所者の交流も続いている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	生活の中で一人一人の言葉や表情・仕草など把握し、本人の言葉を含めたカンファレンスやアセスメントの修正を行い個々の望まれる生活が実現できるよう努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	環境が変わることで利用者個々の心身の負担をきたすことは予測出来る為、今まで生活をされてきた環境や経験を以後反映していけるよう、現能力や本人の意向を確認しホームでの生活に繋げている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の状態の変化に応じたアセスメントやケアプランの変更を行うと共に、日常の状態を職員間で共通認識することで機能保持・負担軽減につなげている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	モニタリングを通じて見えてくる課題に関して本人や家族の意向を踏まえてカンファレンスを実施している。意見の集約をし、今必要と思われる支援を介護計画に反映している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者個々の言動を見聞きしたまま記録すると共に、支援者側の対応・ケアの方法や言葉がけなどもありのまま記載することで利用者にとってより良いケアを模索し、改善する機会となっている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	訪問リハビリなど、ホームにないサービスの提供を他機関と連携し実施している。ホームでの生活に困難をきたしている利用者に関しては地域包括と連携し、特養への移行など相談・実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の店舗への日常的な買い物や行事への参加と共に運営推進会議を中心に地域との関係作りに努め、実際にホーム内を見て頂き危険個所と思われる設備等、改善案を頂き反映に努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	近医との関係を密にしており、老人健診・定期健診・体調不良時は看護師と受診している。随時家族同伴で受診し、医師から説明頂木、日常生活のアドバイスを頂いている。運営推進会議にも病院スタッフが参加して頂いている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	24時間、必要時には情報を共有し、緊急性がある場合には速やかに対応している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院先には利用者の情報を提供し、混乱なく治療を受けられるよう可能な範囲で面会している。速やかな退院に向け、情報交換しながら退院後の対応に向け相談している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	日々の家族との関わりの中で、今後起こりうるリスクや状態変化について説明の機会を設け、リスクに対して同意書を頂いている。医療的なケアが必要な場合は、併設の特養と連携し、家族の理解を得ながら、視線の場を移行している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	内部研修で高齢者に多い症例に対する対応や緊急対応研修を実施計画している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	日中・夜間想定避難誘導訓練を毎月行っている。今年度は地域住民の方への応援要請を含めた訓練を9月末に計画しており、地域の方からも了承を得ている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言語障害の方や発語数の少ない方にはゆっくりと聞き取り大便することで他者との関係が保てる様配慮している。思いが上手く伝えられず混乱が見られる方等、指摘を受けそうな場面を予測しさりげなく介入するようにしている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	思いを上手く伝えられる方は何でも言える関係を築き、希望に沿った対応をしている。上手く意思表示できない方からは、表情や行動から察し生活場面に繋げている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々の生活リズムや体調の把握、行動を見守り危険性がある場合は付き添っている。他ユニットでくつろぐ方、声を掛け共に洗濯たみをされる方、草取りを始める方、お地蔵様参りにいかれる方、個々の希望に沿い支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に美容師が訪問し、カット・カラーリングの希望に対応している。化粧品の購入や起床時の身だしなみ、好みの衣類選び等付き添っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	好みの献立を盛り込み、食事の支度・盛り付けと一緒にやっている。自分で洗える方は片付けをしてもらっている。また、「家事が自分の役割」と生活の張りを持たれている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の好みやアレルギー・咀嚼状態を把握して個々にて対応している。水分摂取の時間を生活に織り込み一定量摂取できるようにしている。また、活動量・摂取量のバランスを取りながら提供量を加減している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯科検診・治療・指導を受け、個々の状態を把握し、口腔ケアのポイントを職員にて共有して行っている。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	尿意のない方、曖昧な方は定期的あるいは表情や行動をみながらにトイレ誘導している。夜間は、睡眠サイクルや失禁量を考慮し、個々に合ったパットの大きさを選び、睡眠確保に繋げている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々の排便リズムを把握し必要に応じて下剤も使用している。また、自然排便を促せるようコーヒータンク時にてオリゴ糖を使用する方もいる。日常のおやつ時には果物を取り入れたり日課の体操にて運動を取り入れている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	身体的に常に付き添いが必要な方が数名みえ、一日のうちに全員が入られることはないが、前日に入られていない方からを優先しなるべく希望に沿い入浴して頂いている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	前日の睡眠状態や、その日の状態・表情・行動等に合わせた対応をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の薬管理袋に処方薬が入っておりいつでも確認が出来るようにしている。内服は必ず手渡しして、飲み終わりを確認してから用紙にチェックをしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の力量に合わせた家事を提供し、必要に応じ介入をしている。草取りやお地蔵参り、鼻の水やりなど個々の趣味に応じて支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	盆正月等親戚が集まる際は家族と外出されている。地域行事では、行き先で地域の方々の協力や声を掛けて頂いている。他ユニットと協力し年間を通して季節を感じられる外出を企画・実施されている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ほとんどの方が施設管理となっているが、買い物の際には支払いを一緒に行ってもらっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は、予め家族の都合も伺い可能な時間帯に掛けて頂く方もみえる。随時支援し、不在の場合は留守電に入れ、掛けて頂いている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	作品作りを兼ね、季節を意識した貼り絵をし共有スペースに貼っている。また、ケアハウスよりペーパードールを作って頂き玄関や、各居室に飾られ和まれている。各玄関には外に出られた方をキャッチする為の音を自然な物で利用している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	他利用者を気にせずにいられる・気兼ねなく過ごせるスペース、ソファを置き、思い思いにくつろげるように設置している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用していた家具や、鉢植えなど、危険がない限り本人の好きな物を好きなように配置されている。写真や友人などからの絵手紙等古布に張り飾られている方もみえる。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	必要箇所には張り紙をし、視覚認識できるように提示している。視力障害のある方もみえ、家具(ソファ)を利用し、テーブル席までの動線を確保し安全に移動できるようにしている。		